平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（南伊勢町）の概要

６月９日（土）に南伊勢町で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、いずみ楽農会の皆さん１２名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

○ 違う町から引っ越してきたので、周りに知り合いもなく、都会だと引きこもりがちになってしまうが、いずみ楽農会は、コミュニケーションが取れる場。自然の中でいろいろ体験することで、子どもたちも生き生きしていく。そういう場を大事にしていく必要がある。

○ 農業の体験ができることはすばらしい。田舎で経験できることをもっと増やしたい。

○ 現在は、運営スタッフの負担が大きいため、地域のみんなが力を合わせて、みんなの力が生かせる場になればいいと思う。

○ 農業は生活の原点。だんだん縮小していくことを危惧しているが、ここでは、若い人が中心になっていろいろやってくれているので、今いろいろ活動の芽がでてきている。

○ 昔は、炭焼きをすることで、山の状態を維持でき、結果、海もきれいだったが、近年は、山と川がつながるような仕組みがなくなってしまった。炭焼きをとおして、次の世代の５０年後には、また海が甦るのではないかと考え、今からできることを

していきたい。

○ 農業をしたくて、ここにきた。農業を守っていく上で、獣害は深刻な問題である。

神原地区のみなさんが、「この地区がこうなったらすごいやんか」と思うことを１枚１枚の葉に書いてつくった「すごいやんかの木」

いずみ楽農会の活動を紙芝居で紹介

いずみ楽農会の夢である炭焼き小屋の部屋

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○ 三重県も昨年台風１２号の被害があり、今もまだ山が災害復旧できていないところがあるため、その結果、濁水が出たりしている現状がある。今、本当に山と海とがつながっていることを意識した対応が必要であり、行政としても一生懸命やっていきたい。

○ 子どもたちが、いろいろな経験ができるということは本当にすばらしい。最近はインターネットなどによって、やっていないのに、それをやった気になってしまうことが多いが、実際に経験するのとそうでないのでは全然違うので、そういう場があることは必要。

○ 自分が誰かの役に立った時、自分がやったことで誰かが喜んでくれたとき、幸せを感じる。誰かに任せっきりにするのではなく、自分自身で動くことで幸せを感じる、そういう皆さんのようなアクティブ・シチズンを一人でも増やしていくのが、自分の仕事だと感じている。

トークの後、参加者の皆さんに炭焼き小屋まで案内していただきました。